

これまでを振り返って

NTT ソフトウェア株式会社
代表取締役社長

山田伸一

私は昭和 52 年に工学研究科電子工学専攻前期課程を修了し、NTT に入社いたしました。入社時の配属は横須賀電気通信研究所で情報処理系の研究室に所属しました。研究所で 10 年お世話になった後、NTT データに転籍し 23 年勤務しました。一昨年、NTT ソフトウェアに移り、現在に至ります。

NTT の研究所はいろいろな国の研究機関と交換制度を持っており、入社して 5 年目の 1982 年に、西ベルリンの HHI (ハインリッヒヘルツインスティテュート) に半年滞在させていただきました。当時はまだベルリンの壁があった時代で、西ベルリンは英米仏の三国管理地域でした。ベルリンに空路で入るにはこれら三国の航空会社の飛行機を使わないといけない環境でした。日本人もあまりいなくて、ベルリン滞在中はほとんど日本語を話すことがありませんでした。つたない英語でドイツ人の研究者と会話するしかなく、仕事はともかく、英語力向上にはかなり役に立っていると思います。西ベルリンには共産圏、トルコなどいろいろな国の人がいました。夜に通っていた語学学校では、このような人たちとたどたどしいドイツ語で話したのも懐かしい思い出です。賑やかな西ベルリンから東ベルリンに入ると街が暗くて重苦しい雰囲気、やはりいろいろ考えさせられました。この半年はそれまで日本しか知らなかった私の視野を広げる貴重な機会であったと思っています。

研究所では、当時主流だったメインフレーム関係のプロジェクトではなく、新しいシステムを検討するチームに所属し、当時注目され始めた Unix を勉強しました。Unix はベル研究所が開発した OS で、ソースコードで配布されていました。それを勉強し、まだパソコンが無い時代にワークステーションを開発しました。ソースコードが入手できるので、自分で変更を

加えたり、他の人たちが行った改造を利用したり、複数のチームが協力して開発することが可能です。オープンなプラットフォームを使うと、自分に力があれば(努力すれば)他の人たちと協力したり自分の思うような仕組みを簡単に作ったりできるというのは、今のオープンソースの活動などにも通じる大事な考え方だと思います。

NTT データに移ってからしばらくして、オープンシステム (ネオダマと言う言葉を聞かれたことがあるでしょうか、ネットワーク、オープンシステム、ダウンサイジング、マルチメディアの略です) が関心を集めて、CISCO や Sun, HP, Oracle などのシリコンバレー出身の会社が注目されました。NTT データもシリコンバレーで情報収集や現地の会社との連携を強化しようと現地事務所をつくり、責任者として 2 年赴任しました。40 歳を過ぎて初めての単身赴任が海外で、大変でしたが、Java が発表された頃でもありシリコンバレーが元気な時期で、仕事の面では大変刺激的で勉強になりました。日本からお客様をはじめたくさんの方々がシリコンバレーの事務所を訪問してくださり、タイムリーにお役に立てたのではないかと考えています。

シリコンバレーのベンチャーキャピタルを中心としたコミュニティの文化やエコシステムを理解できたことは、その後様々な形で役立ちました。一方、シリコンバレーの会社との連携ではなかなか苦労しました。日本と米国のお客様側の情報システムに関する考え方の違いについて考えさせられたのもこの時期です。良い悪いは別にして、日本の終身雇用システムの影響が情報システム部門にも影響を与えていると思いますが、この話は書き出すと長くなるので今回はやめておきます。

私が工学系、それも情報処理の分野に進むきっかけ

になったのは中学生時代に濫読したSFの影響だと思います。その頃に、人間の代わりにロボットやコンピュータに魅力を感じ、これに関係した仕事をしたいと思い、60歳を越えた今もこの分野で仕事をさせていただいているのは大変ありがたいことです。

入社した頃のコンピュータは巨大でしたが、今のパソコンほどの性能もなく、これを使って大規模な業務をこなすには、性能を引き出す、あるいは信頼性を高めるために様々な工夫が必要でした。一種の匠の世界で、技術屋が活躍する場面がたくさんありました。この時代には、ソフトウェアはハードウェアの能力を引き出すための添付品で、ハードを買うとソフトやサービスはついてくるという仕組みでした。その後、ミニコンピュータ、ワークステーション、インターネット、パソコンなど、新しい技術が出てきて業界は大きく様変わりしてきました。

今やパソコンもスマートフォンやタブレットの波に押されて主役の場から降りようとしています。また、昔はコンピュータを使わないで実施している仕事をコンピュータをうまく使って改善していくことが課題でしたが、最近ではコンピュータをうまく使って、今はまだ無い仕事の仕方や新しいサービスを作っていく（お客様も何が正解かは判っていらっしやらない）ことが多くなってきています。新しい技術から、新しい業務やサービスに、難しい点が変わってきたと思います。

この動きの中で二つ重要なことがあると思っています。一つは、ハードウェアはコモディティになって（コモディティになると価格競争になってしまいます）、ソフトウェアが主役になったこと。

もう一つは、企業・社会・生活の様々な面に情報システムが取り入れられて情報システムなしには世の中

が回らなくなってしまったこと。例えば、自動車の中には膨大なソフトウェアが入っています。ソフトウェアというものは（あるいはICTと言ったほうがよいのかもしれません）、それ自体は道具（手段）であって、目的ではありません。しかし、これを上手に活用することは生きていく上で大変役に立つものだと思います。誰にとってもソフトウェアを使いこなす能力は重要です。専門家は高度な技術を使って、ソフトウェアをより使いやすくいろいろなことができるように鍛える、専門家で無い人たちはソフトウェアをうまく使って、生活・仕事・社会をより良くしていく、ということがこれからもずっと必要だと考えています。

コンピュータの歴史は短いものですが、様々なものが変化してきました。その中でも変わっていくものと変わらないものがあると思います。技術や製品はいろいろ変わっていきませんが、その裏にある基本的な考え方は同じだと思いますし、それを使って何をするのが大事だと思います。

私が一昨年からは担当させていただいている NTT ソフトウェアという会社は、NTT 研究所の研究開発のサポートをして、その技術を皆様のお役に立てていくことがミッションです。私のこれまでの経験を活かし、ソフトウェアを更に発展させ、それを活用することで世の中の変化のお手伝いを少しでもさせていただきたいと思い、決意を新たにしているところです。

大学を卒業してからこれまでを振り返るよい機会を与えていただきましたことを感謝しております。拙い文章ですがソフトウェアについての私の思いを多少ともお伝えすることができれば幸せに思います。

（電子 昭和 50 年卒 52 年修士）